

三代藩主 伊達綱宗

仙台市博物館 学芸員 菅原美咲



綱宗の生い立ち

綱宗は寛永一七年（一六四〇）八月、二代藩主忠宗の六男として誕生し、幼名を巳之助（つみお）としました。母の貝姫は忠宗の側室でしたが、寛永一十九年（一六四二）に病没したため、巳之助は忠宗の正室振姫の養子となります。その後、振姫所生の兄光宗が急逝したため、巳之助は新たな後継者として扱われ、一五歳で元服して將軍徳川家綱から「綱」の一字を拝領し、綱宗と名乗りました。

綱宗の強制隠居

万治元年（一六五八）、忠宗が六〇歳で没し、綱宗は一九歳で三代藩主に就任します。しかしその僅か二年後、綱宗は突然幕府から隠居を命じられます。理由は綱宗の不行跡。酒色にふける綱宗に、藩の重臣や親戚大名が度々注意を加えました。しかし行動は改善されず、藩の行く末を危惧した重臣らが綱宗の隠居願いを幕府に提出したのです。

当時の武家の間では、器量に欠ける主君を隠居に追いやり、御家を守る「主君押し込め」という慣行が広まりつつありました。伊達の御家存続に不相应な藩主として家臣に見切りを付けられた綱宗は、以後江戸下屋敷である品川屋敷からの外出を禁じられ、長い隠居生

活を送ります。

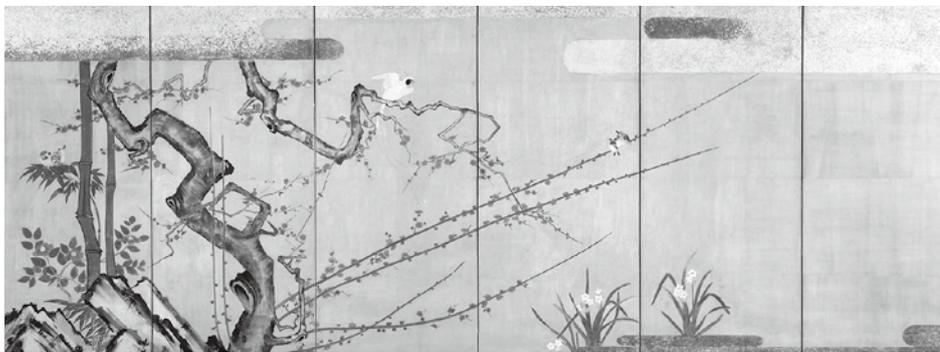
仙台藩は幕府の許可を得て、綱宗の長男で当時二歳であった亀千代（のちの綱村）を四代藩主に立て、伊達兵部宗勝（伊達政宗の十男）と田村右京宗良（忠宗の三男）を後見に据える新体制を開始しました。このことがのちに「伊達騒動」とよばれる御家騒動につながっていきます。

品川屋敷での生活

強制隠居後の綱宗は、能や絵画などの芸術に打ち込みました。特に能では、秘蔵の能面を鑑定して綱村に贈ったり、綱村が幕府から能興行を命じられることを受けて、自身の能道具を贈って細やかにアドバイスをしたり、また幕府から慰み能を許されたことから能役者を自分の屋敷に上らせるよう綱村に要求するなど、能を通じて父子の交流がうかがえます。絵画では、幕府や仙台藩のお抱え絵師（仕事を請け負う専門画家）をつとめた狩野派の絵師たちに手ほどきを受けて、屏風絵などの本格的な絵画を制作しました。その腕前は歴代仙台藩主の中でも優れています。

正徳元年（一七一二）六月、綱宗は七二歳で死去したのち、政宗・忠宗と同じく瑞鳳寺に葬られ、廟所として善応殿が建てられました。昭和五八年（一九八三）、善応殿から発

掘された綱宗の遺骨には、上下の顎骨に特殊な摩耗が見られました。これは煙管を常習的にくわえていたためとみられます。約五〇年にわたって隠居生活を送った綱宗は、煙草をふかしながらどんな思いで藩政の推移を見守ったのでしょうか。



花鳥図(左隻) 伊達綱宗筆(仙台市博物館所蔵)

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付し ておりません。

博物館休館のお知らせ

12月28日(木)~2018年3月30日(金)

館内設備改修工事のため、上記の期間は休館とさせていただきます。(ミュージアムショップ・レストラン含む) 不便をおかけしますが、ご了承くださいませ。

《休館中のお問合せ先》

電話:022-225-3074

(月~金 9:00~16:45)

FAX:022-225-2558

※平成30年度の展覧会予定などにつきましては、決まり次第博物館ホームページや各種広報物でお知らせします。

『仙台市史』のご案内

仙台市史

通史編 近世2

宮城県内主要書店にてお買い求めいただけます。A5判 オールカラー 604ページ 本体価格 2,858円(税別) 販売元:(株)宮城県教科書供給所 電話022-235-7181

三代藩主の強制隠居、大老邸での刃傷事件… 仙台藩を震撼させた伊達騒動から 五代藩主伊達吉村の財政立て直しまでを紹介。



伊達騒動を題材にした歌舞伎「早苗島伊達聞書」豊原国周画 仙台市博物館蔵

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 仙台市博物館 検索